
令和6年度 事業報告書・概要版

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



令和7年6月
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※ 本文のグラフや表における「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目2番地
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	13名（令和7年3月31日時点）
職員数	3,664名（令和7年3月31日時点）

◆役員名簿

（令和7年3月31日時点）

役職	氏名	備考
理事長	橋本 信夫	
理事	木原 康樹	中央市民病院長
理事	中村 一郎	西市民病院長
理事	北垣 一	西神戸医療センター院長
理事	栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	志水 達也	法人本部長
理事	植村 武雄	小泉製麻株式会社会長
理事	千原 和夫	兵庫県立加古川医療センター 名誉院長
理事	小西 郁生	京都医療センター名誉院長
理事	江川 幸二	神戸市看護大学長
理事	村上 雅義	神戸医療産業都市推進機構専務理事
監事	藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床

一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床/SCU：12床/HCU：28床）

感染症：10床

MPU：8床

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組みとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療
支援病院

救命救急センター
指定病院

病院機能評価
認定施設

災害拠点病院

地域がん診療
連携拠点病院

第一種感染症
指定医療機関

総合周産期母子
医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- ④24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和7年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床

一般病床：358床（うち、HCU：7床）

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

がん診療連携拠点
病院に準じる病院

認知症疾患医療
センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域のの中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ①患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和7年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：470床

一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）

結核病床：45床

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関

◆基本理念

神戸西地域
に根づいた
安心・安全な
医療をめざし
ます

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準や職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和7年3月31日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床

一般病床：30床（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。



国家戦略特区指定

◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いをつなげる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます

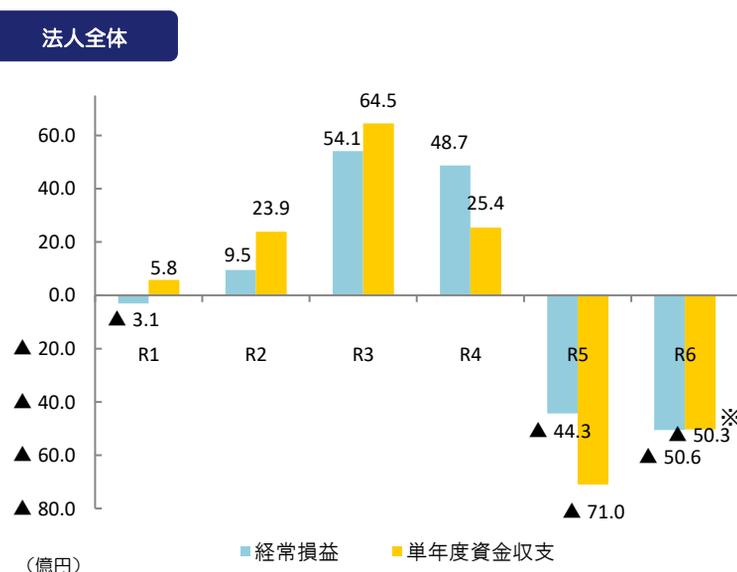

決算概要
◇◆法人全体◆◇

令和6年度も、新型コロナウイルス感染症対応に伴う診療制限の影響が継続しており、入院・外来ともに患者数の確保が困難な状況が続きました。

各市民病院では、地域医療機関との連携の強化や積極的な救急医療の提供、効率的な病床運用など様々な経営改善策を立案し、実行に向けて取り組みました。年度後半にかけて入院・外来患者数に回復傾向が見られるなど、徐々にその効果が表れ、医業収益は前年度比で43億円の増加、コロナ前の令和元年度比では96億円の増加となりました。

一方で、近年のエネルギー価格の高騰、経済・物価動向に伴う経費等の大幅な増嵩等によって医薬品費を中心に医業費用の増加は著しく、徹底した価格交渉や委託事業の見直しなど経費削減の取り組みを進めたものの、医業費用は前年度比で35億円、コロナ前の令和元年度比では131億円の増加となるなど厳しい経営環境が続いています。

その結果、法人全体で経常損益は51億円の赤字、当期純損益は53億円の赤字、単年度資金収支は77億円（設立団体への納付金27億円を含む）の赤字となりました。

グラフ1：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）


※R6年度の単年度資金収支には、別途『設立団体納付金 27億円』がある

◆◆病院別◆◆

① 中央市民病院

VCCを利用した柔軟な病床配置等により、通常医療の拡大と救急患者の更なる受入れとの両立を実現したことで患者数が増加（前年度比 入院：＋3.7%、外来：＋2.0%）し、医業収益も増加しました。一方で、給与改定や物価高騰等に伴って医業費用も増加したほか、新型コロナウイルス感染症に対する補助が皆減（前年度比 ▲11.6億円）したことも影響し、経常赤字となりました。

② 西市民病院

救急車応需の向上や診療所訪問による集患対策等により患者数が増加（前年度比 入院：＋9.3%、外来：＋3.4%）し、また、手術件数も増加したことで医業収益は増加しました。一方で、患者数の増加増加に伴う材料費の増加や人件費・物価高騰の影響等から医業費用も増加した結果、医業収支は好転したものの、経常赤字となりました。

③ 西神戸医療センター

救急入院をより円滑に受け入れられる体制を整えたことで患者数が増加（前年度比 入院：＋6.2%、外来：＋0.4%）し、医業収益は増加しました。費用面でも、清掃業務直営化や使用材料の切替等で経費の削減に取り組み医業収支は好転しましたが、患者数増加に伴う医薬品費の増加や給与改定等に伴う給与費の増加等により経常赤字となりました。

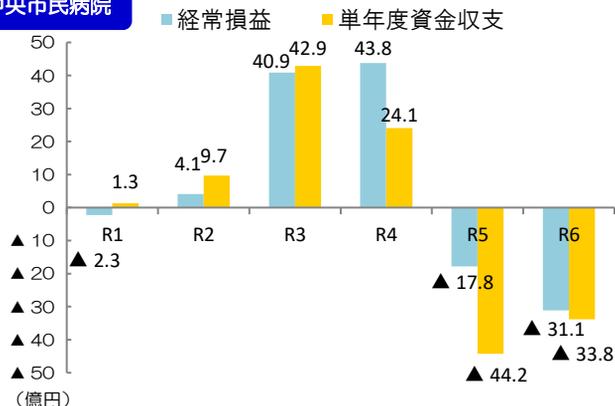
④ 神戸アイセンター病院

医師の離職等の影響から入外とも延患者数は減少（前年度比 入院：▲2.5%、外来：▲5.0%）しましたが、病床・手術室の効率的な運用や、診療所訪問による紹介患者の獲得等により新入院患者数・手術件数・診療単価が増加し、医業収益は増加しました。手術件数の増に伴う材料費の増加等、費用も増えましたが、価格交渉の効果もあり経常黒字を確保しました。

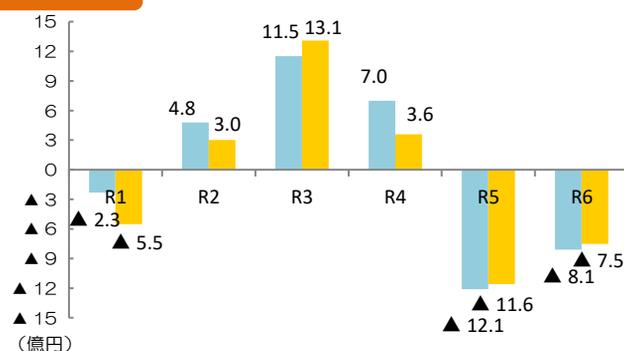
グラフ2：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）

※R6年度の単年度資金収支は『設立団体納付金』を除く

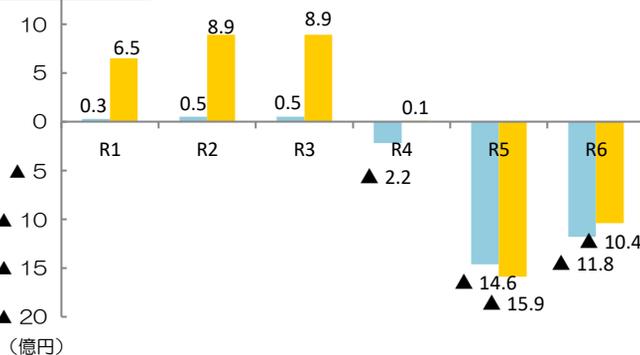
中央市民病院



西市民病院



西神戸医療センター



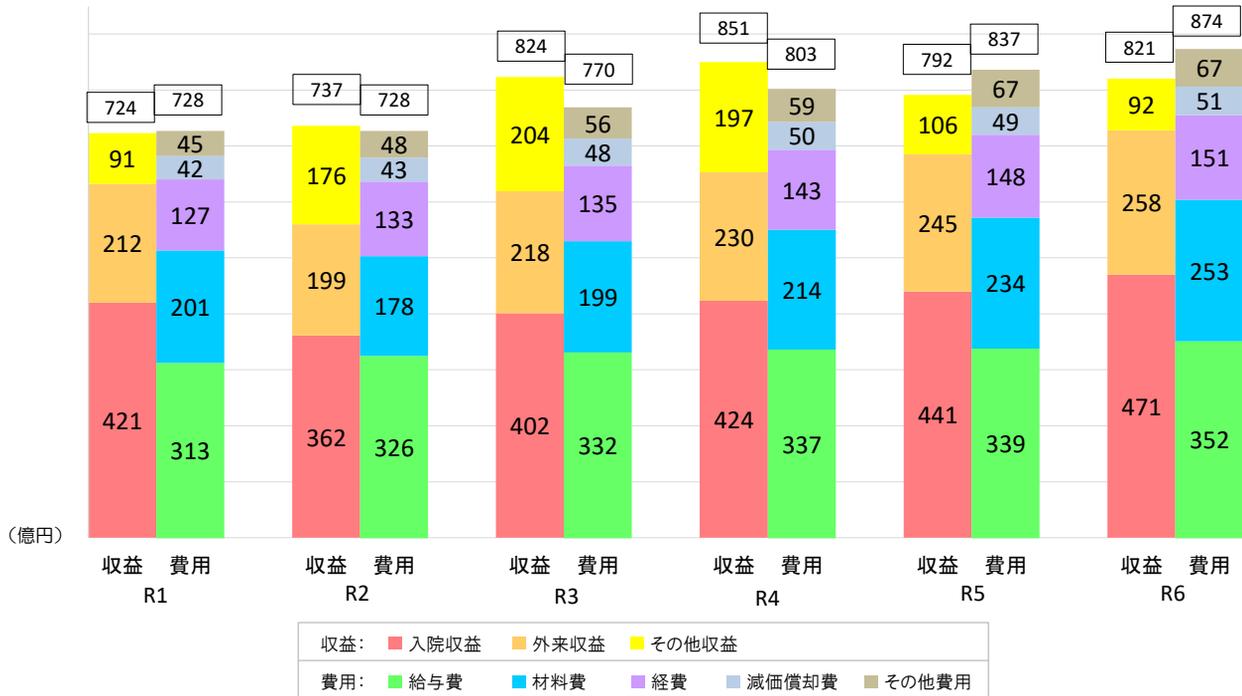
神戸アイセンター病院



◆◆財務諸表の概要◆◆

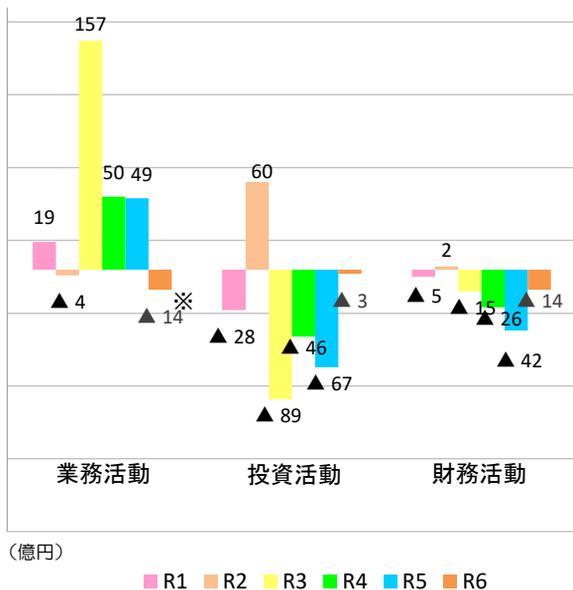
グラフ3：損益計算書

各事業年度における法人の経営成績



グラフ4：キャッシュ・フロー計算書

各事業年度の現金及び預金の増減を活動区別に表示

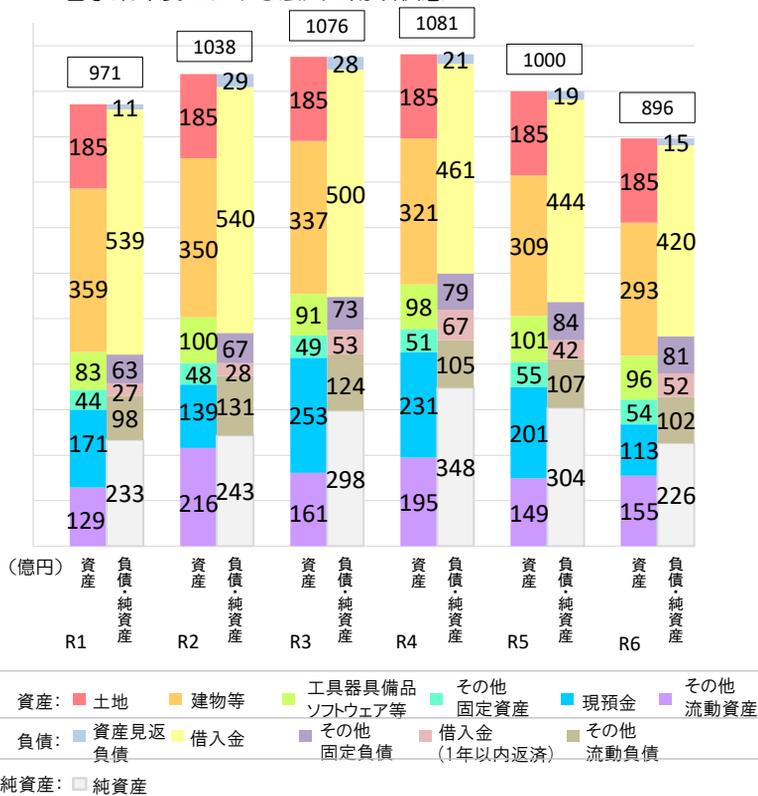


令和6年度末の現金及び預金残高は113億円となっています。

※ R6年度の業務活動には、別途『設立団体納付金の支払 27億円』がある

グラフ5：貸借対照表

各事業年度における法人の財政状態



神戸市立医療センター中央市民病院

ア 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

救急患者の受け入れ体制確保のため、院内全体の病床運営の効率化に努めることにより救急医療を提供し、救急患者の円滑な受け入れを行いました（グラフ6）。

また、厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※」において、11年連続で1位に選ばれました。

グラフ6：救急患者数の推移（人）

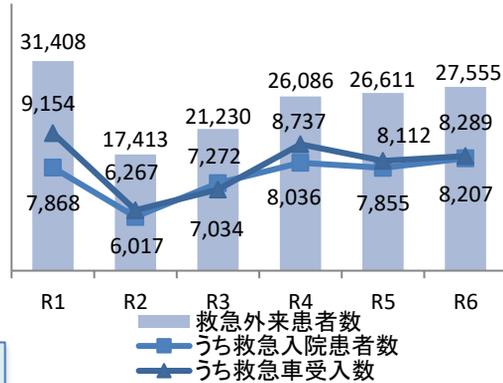


写真1 全国救命救急センター評価
グラフ7：中央市民病院の周辺医療機関との連携件数の推移（件）

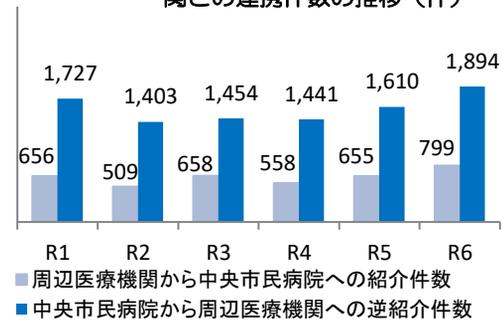


写真2 細胞治療センター

◆令和6年度の主な取り組み

- ・ 全国救命救急センター評価11年連続1位（写真1）
（評価対象となる全45項目全てにおいて満点を獲得）
- ・ さらなる救急医療体制の充実・病床運営の効率化を目指し、他院への下り搬送※の試行運用を開始

イ 高度な専門医療の提供

がん治療については、手術支援ロボット（ダヴィンチ・hinotori）を使った手術を継続するとともに、トレーニングラボにロボット支援手術シミュレータを設置し、術者のスキルアップに取り組みました。

今後さらに発展が期待されている細胞治療を、より安全かつ高い水準で実施することを目的に、細胞治療センターを開設しました（写真2）。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・ 疾患別の専門医を中心に多職種スタッフで構成されたチームによる高度専門医療の提供
- ・ メディカルクラスター※内でのがん医療連携を継続（グラフ7）

<全国救命救急センター評価>

厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受け入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

<下り搬送>

三次医療機関等の救急医療機関で初期診療を実施した後、連携する他の医療機関に転院搬送を行うこと。

<メディカルクラスター>

神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

ウ 神戸医療産業都市の中核機関として 治験・臨床研究の推進

医師主導治験や特定臨床研究※の支援体制を行うとともに、治験・臨床研究を推進しました（グラフ8）（表1）。また、法令等に基づき倫理性と科学性確保のもとで研究を円滑かつ安全に遂行しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・臨床研究において4件の特許を出願（いずれも企業との共同出願）
- ・トランスレーショナルリサーチ（企業等との橋渡し研究）のコンサルテーション等の取り組み強化により、企業等とのマッチングを促進

エ 高度な小児・周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター※として、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等のハイリスク母体への診療対応を積極的に行うとともに、低出生体重児や病気をもった新生児についても、最新の医療技術を用いた診療により、救命に努めました（グラフ9）（写真3、4）。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・連携登録施設（産科・産婦人科44施設、小児科110施設）との情報共有
- ・産科ホットライン※、小児科ホットライン※の継続

写真4 胎児超音波検査の様子

グラフ8：治験・臨床研究件数の推移（件）

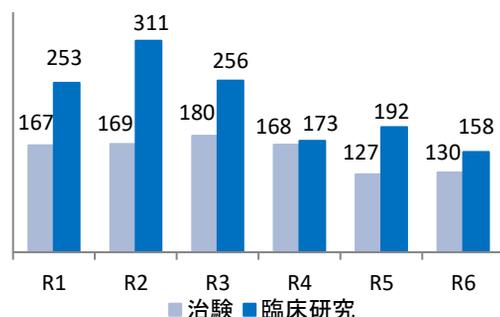


表1：特定臨床研究・医師主導治験実施件数（件）

項目	R4	R5	R6
特定臨床研究	86	69	60
うち当院が研究責任者	3	5	1
医師主導治験	12	13	10
うち当院が研究責任者	1	0	0

グラフ9：ハイリスク妊娠及びハイリスク分娩件数（件）

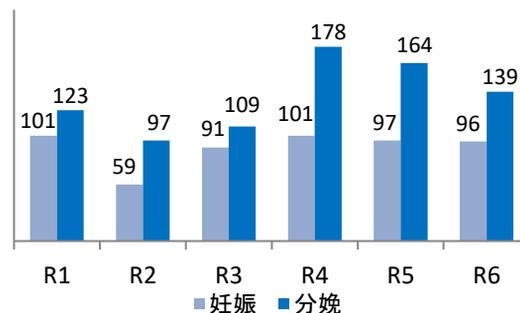


写真3 超緊急帝王切開術※シミュレーションの様子



<特定臨床研究>

- 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

<総合周産期母子医療センター>

- 新生児集中治療管理室（NICU）や母体・胎児集中治療管理室（MFICU）を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応が可能な医療機関。

<ホットライン>

- 地域医療機関からの受け入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線や、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科、外傷のホットラインを設置している。

<超緊急帝王切開術>

- 胎児の救命を目的に、30分以内の分娩をめざす帝王切開のこと。

神戸市立医療センター西市民病院

ア 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

2次救急病院として24時間365日受け入れに努め、救急外来患者数、救急入院患者数及び救急車受入数は前年度を大きく上回る応需件数となりました（グラフ10）。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・救急当番医を配置し、一部夜勤帯はオンコール体制をとることで24時間体制で救急医療を提供し、過去最多件数の救急車を応需
- ・救急隊（長田・兵庫・須磨）との合同研修会を開催し症例検討・実技講習等を実施（写真5）

グラフ10：救急患者数の推移（人）



写真5 消防との研修

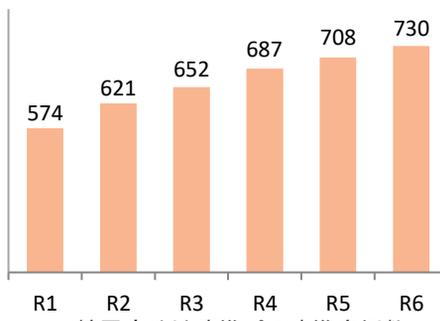
イ 高齢化の進んでいる地域の医療機関として、低侵襲医療とADLを重視し、地域の医療介護機関との連携により治し・支える医療の提供

ダヴィンチを用いた腹腔鏡手術を複数診療科で積極的に実施し、低侵襲な治療に取り組みました。

また、地域医療機関に向けて、生活習慣病の悪化防止に関する研修会を積極的に行いました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・ダヴィンチを用いた腹腔鏡手術件数の増加（4診療科）
- ・糖尿病地域連携パスの利用促進（グラフ11）



グラフ11：糖尿病地域連携パス連携症例数の推移（件）

ウ 地域のハイリスク分娩に対応できる周産期医療の提供

出産前から出産後まで質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに、ハイリスク妊娠・分娩にも対応しました。

また、SNSによる情報発信にも努めました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・育児支援が必要な母子を対象に、産後ケア事業*を開始（写真6）
- ・産婦人科のInstagramを開設し、当院の取組等について妊婦へわかりやすく情報を提供



写真6 産後ケア入院

<産後ケア事業>

- 産後のお母さんが心身を休めながら、授乳や沐浴などの育児技術を見につけられるよう助産師などの専門家がサポートする事業。

エ 地域需要に対応した小児医療の提供

地域で唯一の小児二次救急輪番体制確保を継続し、安定的な小児救急医療の提供に努めました（グラフ12）。

また、各科・多職種による協力のもと、アレルギーをはじめとした小児疾患の対応を行いました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・学校や保育現場で生じたアレルギー児対応について、専門医をはじめ地域の多職種で考える「アレルギー児に対する地域連携の会」を開催
- ・保護者や子どもの保育等に関わる人を対象とした「小児アレルギー講習会」を開催（写真7）

グラフ12：小児救急患者数（人）

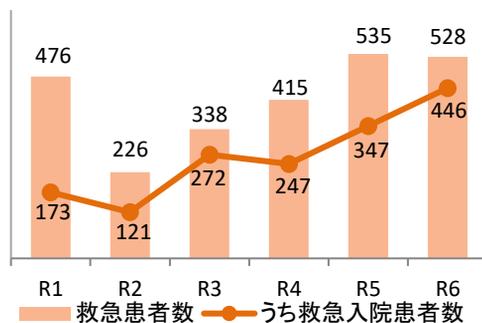


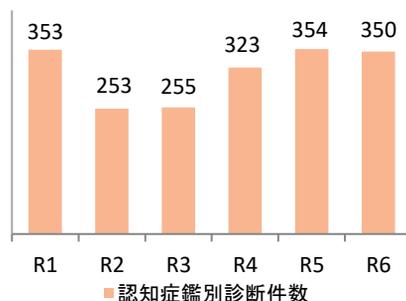
写真7 食物アレルギー地域連携の会

オ 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症疾患医療センターとして、認知症鑑別診断*（グラフ13）や認知症専門医療相談を継続するとともに、新たな治療薬の開始等、市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に寄与しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・レカネマブ*治療を新たに開始
- ・MCI*初期認知症と診断された患者家族会「ここからカフェ」を開催
- ・「認知症へのそなえ」をテーマにした市民公開講座や患者やその家族を対象とした音楽療法を実施（写真8）



グラフ13：認知症鑑別診断件数の推移（件）



写真8 音楽療法

<認知症鑑別診断>

- CT、MRI、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

<レカネマブ>

- 認知症の専門診療を適切に行えるための基準を満たした医療機関でのみ使用できる軽度認知症に対する新規治療薬。

<MCI>

- 認知症の前段階である軽度認知障害のこと。本人や家族に認知機能低下の自覚があるものの、日常生活は問題なく送ることができている状態のこと。MCIの状態では日常生活に支障が出始めると認知症の状態であると判断される。

神戸市立西神戸医療センター

ア 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

年間を通じて24時間体制で救急医療体制を確保するほか、高度急性期医療の充実を図りました。

また、救急病棟の病床管理を徹底するなど受入体制強化を図り、救急患者及び救急入院患者が増加しました（グラフ14）。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・意見交換会などの機会を通じ、日頃から西消防署・垂水消防署との密接な連携を維持しながら救急車受入推進に向けた体制を強化
- ・時間外における内科当直体制の強化（1名から2名へ増員）や救急診療マニュアル（写真9）の改訂

グラフ14：救急患者数の推移（人）

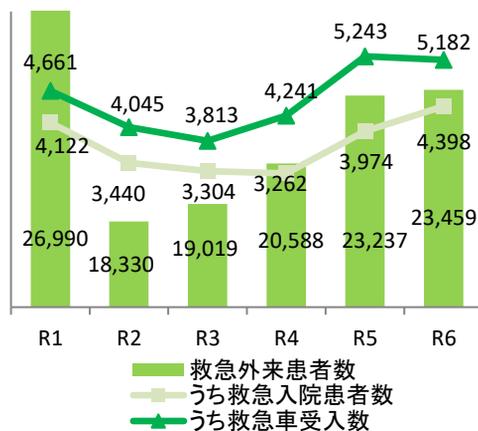


写真9 救急診療マニュアル

イ 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

小児の二次救急医療体制※に参加し、小児患者の救急車搬送についても可能な限り応需し、神戸西地域のみならず、明石市や三木市等の周辺地域の小児救急体制を安定的に提供しました（グラフ15）。

また、地域の医療機関と連携し、幅広い小児疾患に対応しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・地域医療機関からの紹介件数は1,677件と開院以来最多となり、周辺地域からの紹介も断ることなく応需
- ・専門外来においても、アレルギー、未熟児、神経、循環器を中心に充実した診療体制を維持

グラフ15：小児（15歳以下）救急患者数の推移（人）



<救急医療体制>

神戸市では限られた医療資源を有効に活用し、より適切な医療を提供するため、救急医療機関の持つ医療機能に応じて初期・二次・三次と救急患者の受入体制を整備しています。

ウ 地域における高度な周産期医療の提供

小児科が対応可能な32週以降の母体搬送受け入れを継続するとともに、全分娩の約40%に及びハイリスク妊婦・ハイリスク分娩をはじめとした地域の需要に応じた周産期医療を提供しました。

また、全員を対象に妊娠中のうつに対するスクリーニングを行い、精神的ケアに取り組みました（写真10）。



写真10 妊婦相談室



写真11 病棟に設置されたファミリアのフォトブース

◆令和6年度の主な取り組み

- ・(株)ファミリアのサポートクリニック*として、オリジナル肌着一体型ベビー服の活用や、フォトブースの設置を継続（写真11）

エ がん患者への幅広い支援と集学的治療の提供

国指定の地域がん診療連携拠点病院*として、手術支援ロボットによる低侵襲な手術やリニアックでの高精度な放射線治療、また化学療法センターにおける最適ながん化学療法など、質の高い集学的な治療に取り組みました。



写真12 薬剤師外来

◆令和6年度の主な取り組み

- ・外来化学療法導入時に、薬剤師外来でオリジナル資材を用い暴露対策指導を患者や患者家族へ実施（写真12）
- ・服薬指導、口腔ケア、栄養指導、がんリハビリテーションの実施等、多職種によるアプローチでがん患者のQOLの改善に貢献（写真13）



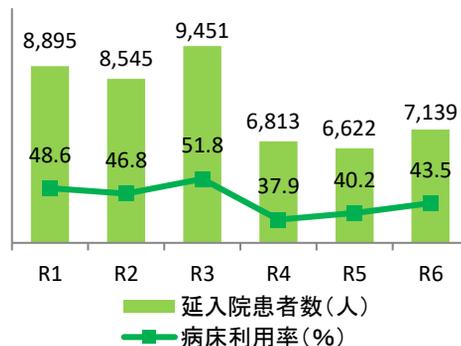
写真13 管理栄養士による栄養指導

オ 結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病棟を有する病院として、総合的な結核医療を提供しました（グラフ16）。

また、結核患者のフレイル評価を行い、リハビリテーションによる機能回復に努めました。

グラフ16：結核に関する指標の推移



<サポートクリニック>

- ▶ ファミリアでは、妊娠してから出産までの約270日と、赤ちゃんが生まれてから2歳の誕生日を迎えるまでの730日を合わせた1,000日をサポートする取り組みを行っている。

<地域がん診療拠点病院>

- ▶ がん医療圏に1カ所整備し、専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、がん患者に対する相談支援及び情報提供を担う。

神戸市立神戸アイセンター病院

ア 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療を提供するとともに、24時間365日体制での眼科救急など中央市民病院と連携して対応しました。

iPS細胞移植の実用化に向けた取り組みを進めました。

◆令和6年度の主な取り組み

- 手術枠の見直し等により手術実施件数が過去最多を更新（グラフ17）
- 地域医療機関訪問や予約手続きの簡素化などの取り組みによって、紹介患者数は過去最多を更新
- **眼科領域における日本初の遺伝子治療の1例目手術を中央市民病院とともに実施（写真14）**
- 網膜色素上皮（RPE）不全症に対するiPS細胞を用いた臨床研究（凝集紐移植）は、厚生労働省・再生医療等評価部会で承認され、先進医療技術審査部会に向けて準備（写真15）

グラフ17：手術件数・硝子体注射件数（件/月）

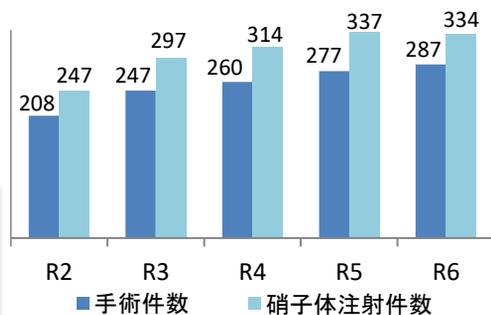


写真14 遺伝子治療手術

先進医療・保険収載までのロードマップ

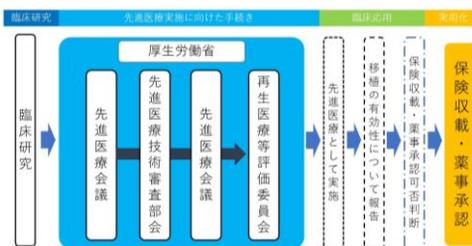


写真15 保険収載までのロードマップ

iPS細胞による網膜再生医療実用化！患者さんに光を失わせない未来へ

神戸アイセンター病院



より多くの患者さんへ治療を届けるため、再生医療の社会実装に向けた更なる一歩を。

写真16 クラウドファンディングページ



写真17 フランス研究機関と合意書締結

イ 治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

より有効で安全性の高い改良版iPS細胞（免疫拒絶が起こらない遺伝子改変）を用いた治療法の改良を進めるとともに、次世代型視細胞（網膜シート）の開発を進めるために、クラウドファンディングを行いました（写真16）。

◆令和6年度の主な取り組み

- iPS細胞由来RPE凝集紐移植の臨床研究について安全性、有効性を調査する目的の論文掲載及び学会発表
- サルに対する黄斑円孔に対し、ES網膜シートによる円孔閉鎖手術に成功、視機能が改善したことを論文発表
- フランス国立科学研究センターと協力体制を強化するため、合意書締結（写真17）

<iPS細胞を活用した移植手術の実用化に向けた取り組み>

➢ iPSを活用した移植手術治療開始から10年を迎え、令和6年度は保険収載の前段階である先進医療承認に向けた手続きを進めました。あわせて、臨床研究においても遺伝子改変によって免疫拒絶反応が起こりにくくすることなど、新たな研究に取り組みました。一日でも早く一人でも多くの患者さんに届けられるよう取り組みを進めていきます。

<黄斑円孔に対するES細胞網膜シートによる手術>

➢ サルに対して、網膜の黄斑部分に穴があく病気である黄斑円孔の治療として、受精卵の一部で作った細胞（ES細胞）を移植することで黄斑円孔をふさぎ、視機能改善に成功しました。将来的に臨床の場での応用が期待されています。



ウ 患者の日常生活支援と患者満足の上

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION協力のもと、生活・就労相談等視覚障害者への支援を継続しました。

退院・外来患者アンケートにより、適宜必要な改善を行い、患者満足度調査（入院）では**7年連続100%**となり、患者状態に対応した食事で嗜好調査でも高い満足度を維持しました（写真18）。



写真18 視力障害に配慮した食事

◆令和6年度の主な取り組み

- ・ 障害者手帳の取得に関する支援を継続実施
- ・ 受付機等に差し込む方向が分かるよう切れ込みをいれたユニバーサルデザインの診察券を導入
- ・ 患者通院支援アプリNOBORIを導入し、予約リマインド・診療費後払い・診察呼び出しの機能を導入（写真19）
- ・ 外国人対応として手術室での医療通訳をタブレットで実施
- ・ 開設7周年（iPS10年）記念講演会の開催
- ・ アイセンターのXを開発し定期的に情報を発信（写真20）



写真19 NOBORIの機能案内



写真20 アイセンター公式X

エ 診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

各部門において策定した部門計画をもとに、部署内での勉強会や学会発表を行いました。

国内外から研修生等を受け入れ、眼科領域での教育、人材育成に貢献しました。



写真21 海外等からの医師研修生

◆令和6年度の主な取り組み

- ・ 連携大学院制度での大学院生の採用及び他大学等（三重、ソルボンヌ、リース）からの研修生を受け入れ（写真21）
- ・ 立命館大学薬学部及びビジョンケアグループと連携・協力に関する協定を締結（再生医療・遺伝子治療分野）し、教育演習を実施（写真22）



写真22 立命館大学との調印・教育演習

<神戸アイセンター公式キャラクター「テンポー」>

- 絵本作家のヨシタケシンスケ氏が神戸アイセンターの活動をわかりやすく情報発信する「モシクワ係」に就任。公式キャラクター「テンポー」を活用した取り組みを開始し、視覚障害者に前後がわかる切れ込みを入れた新診察券にも利用。



市民病院としての共通の役割

ア 災害医療の提供

中央市民病院では近畿地方DMAT*ブロック訓練や大規模地震時医療活動訓練への参加、西市民病院では長田区の災害時医療・介護提供協議会、西神戸医療センターでは西区災害対応連絡会等へ参加するなど、県内の災害拠点病院をはじめとする医療機関や警察、消防、介護施設等と連携し、災害時における役割分担の確認や協力体制について情報共有を行いました。各病院においても、大規模災害等に備えて防災訓練を実施しました。

また、災害時でもインターネットが利用できる衛星通信サービス（Starlink*）を導入し、神戸市の情報伝達に参加して災害発生時の行政機関や他の災害対応病院との情報共有等の確認を行いました（中央・西・西神戸）（写真23～写真28）。



写真23 近畿地方DMAT
ブロック訓練（中央）



写真24 大規模地震時医療活動訓練（中央）



写真25 総合防災訓練（中央）



写真26 地震訓練（西）



写真27 防災訓練（西神戸）



写真28 3日分の備蓄食（西神戸）

イ 新興感染症等への対応

改正感染症法に基づいて、厚生労働大臣から新興感染症発生等の公表があった場合に、病床（中央、西、西神戸）や発熱外来（西、西神戸、アイセンター）の確保を行う医療措置協定を締結しました。

各病院では、感染状況など必要に応じて感染マニュアルの更新、感染対策チームによる院内ラウンドを実施するほか、地域医療機関とカンファレンスを実施し、医療の提供や感染拡大防止に関してのノウハウの提供や支援を行い、地域における指導的役割を果たしました（中央・西・西神戸）。

<DMAT>

- Disaster Medical Assistance Team
大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム。

<Starlink>

- アメリカ合衆国の民間企業スペースXが運用している、低高度を軌道する衛星を活用したインターネットアクセスサービス。通信環境が整備されていない山間部や離島、災害や戦争が起きたエリアでも、高速・低遅延のインターネット接続が可能。

地域医療機関との連携強化及び地域への貢献

(1) 地域医療機関との連携強化

地域連携セミナーやオープンカンファレンス等を積極的に開催、地域医療機関を訪問するなど顔の見える連携を強化しました。また、患者やその家族等の状況に応じた入退院の支援を実施することなどにより、地域包括ケアシステムの推進・運用に努めました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・他院のMSW※等と共同で、MSW NETWORK MEETINGを開催（中央）（写真29）
- ・かかりつけ医相談窓口業務の継続（西）
- ・入退院支援システム「CAREBOOK」の活用（中央・西）・導入（西神戸）
- ・地域医療機関のニーズ把握のため、診療所訪問を実施（4病院）



写真29 MSW NETWORK MEETING（中央）



写真30 病院見学の様子

(2) 人材育成等における地域貢献

神戸市看護大学をはじめ、市内の大学、専門学校に対して、学校訪問や学校主催の合同就職説明会に参加するなど、密な連携を図りました。

また、医師、看護師をはじめとした医療系学生を対象に病院見学や実習受け入れを行い、教育病院としての役割を果たしました（写真30）。

(3) 市民への情報発信

患者向け広報誌、ホームページや、公開講座等により情報を発信しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・開設100周年記念事業として記念式典を開催（中央）（写真31）
- ・デザイン・内容等を刷新した広報誌「みらいろ」を発行し、身近な医療情報や市民講座の予定を発信（西）（写真32）
- ・ホームページをリニューアルし、わかりやすく新しい情報を提供（西神戸）
- ・世界緑内障週間の啓発活動へ継続して参加（アイ）



写真31 100周年記念式典（中央）



写真32 刷新された広報誌（西）

<MSW>

➤ Medical Social Worker（医療ソーシャルワーカー）の略称。病院をはじめとした保健医療機関にて相談業務にあたるソーシャルワーカーのこと。

信頼と満足が得られる医療の提供

(1) 患者の意思決定の支援

患者や家族との相互理解を図り、患者の意思決定を尊重したインフォームド・コンセント※を徹底しました。また、希望する患者に対しセカンドオピニオンを継続して実施しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・オンラインセカンドオピニオン体制を整備（中央）
- ・将来の医療及びケアについて、本人による意思決定を支援する取り組み（ACP）を促進（西神戸）

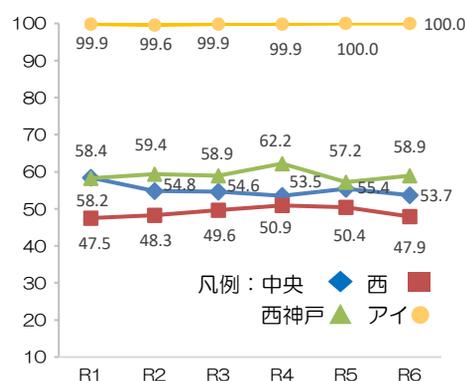
(2) 医療安全対策の徹底

eラーニングを用いた医療安全研修の開催、医療安全ミーティングの実施等、患者が安心・安全に医療を受けることができるよう医療安全意識の醸成に努めました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・医療安全マニュアルの見直し（中央、西）
- ・あかし医療安全ネットワークに参加（西神戸）
- ・視覚障害者に対するの歩行誘導研修を実施（アイ）

グラフ18：クリニカルパス適用（％）



(3) 最適な医療の提供

クリニカルパスを積極的に適用するとともに、高齢化の進展により疾病の複雑化への対応が求められる状況において、患者に最適な医療を提供することに努めました（グラフ18）。

(4) 患者サービスの向上

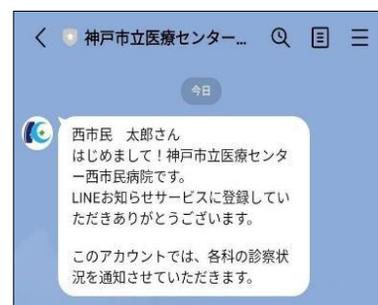
患者満足度調査により患者ニーズを把握し改善に努め、さらに待ち時間の有効活用や短縮に向け対策を検討しました。

また、マイナンバーカードによるオンライン資格確認の円滑な運用を図り、利用しやすい病院づくりを行いました（写真33）。

写真33 マイナ保険証専用窓口（中央）



写真34 LINEお知らせサービス（西）



◆令和6年度の主な取り組み

- ・LINEによる診察状況お知らせサービスの稼働（西）（写真34）
- ・外国人患者にとっても安心かつ適切な医療が受けられるよう、医療通訳制度を活用（4病院）

<インフォームド・コンセント>

- 医療を提供するに当たり、医療従事者が患者・家族に適切な説明を行い、患者・家族が病状や治療について十分に理解したうえで治療に同意するプロセスのこと。

業務運営の改善及び効率化

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性を兼ね備えた医師、看護師等の確保・育成に取り組みました。また、資格取得支援制度、留学制度等（表1）により職員の能力向上等の支援を継続しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・看護職員について積極的な採用活動の実施（法人本部）
- ・ロボット支援手術シミュレーターの導入等による医療系研修の充実（中央）（写真35）
- ・秀でた学術研究を顕彰（西神戸）
- ・語学力向上を目的とした語学研修制度の新設（アイ）

(2) 医師等の働き方改革の推進

DXの推進や多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアの推進、業務の効率化、労働時間の適正化など、全職員の業務負担軽減を図り、働き方改革を推進しました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・病床管理システム、チャット機能の利用など医療現場におけるDXを推進（中央）（写真36）
- ・スマートフォンを用いた音声入力システムによる電子カルテへの記事記載の試験導入（西）
- ・RPAによる業務の効率化（4病院）

(3) 職員が意欲的に働き続けることのできる環境づくり

診療報酬改定を踏まえた給与改定など、全職員が意欲的に働くことができるよう給与制度を改正したほか、「実力本位・人物本位」による人事制度や「仕事と家庭の両立」を支援する制度拡充の検討を進めました。

2. 効果的かつ効率的な業務運営体制の構築

常任理事会等で各病院の課題などを共有しながら、迅速かつ効果的・効率的な組織運営を行いました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・毎月の常任理事会にて現状分析や課題の把握を行い、解決に向けた取り組みの検討・実施
- ・全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施

制 度	利用者数
資格取得支援制度	35名
看護職員長期留学制度	7名
看護職員大学院留学制度	3名
短期国内外派遣制度	1名

表1 主な制度の利用者数（令和6年度）



写真35 集中治療部医師による中心静脈カテーテル挿入トレーニング（中央）



写真36 時間外労働時間等に関する業務用スマホへのプッシュ通知（中央）

財務内容の改善

1. 経営改善の取り組みと経常収支目標の達成

(1) 経常収支目標の達成に向けた収入確保及び費用の最適化

効率的な病床運営、地域医療機関との連携推進等による新規患者の受け入れ等により医業収益確保に努めました。また、4病院体制のメリットを活かし品目の統一・在庫の適正化等の取り組みを進めました。

○ 中央市民病院

◆令和6年度の主な取り組み

- 救急病棟の空床を確保し、より重症な救急患者受け入れ促進のため、いわゆる下り搬送の取り組みを開始
- 休床中の5階南病棟での入院患者受け入れを再開し、新入院患者の増加を促進

○ 西市民病院

◆令和6年度の主な取り組み

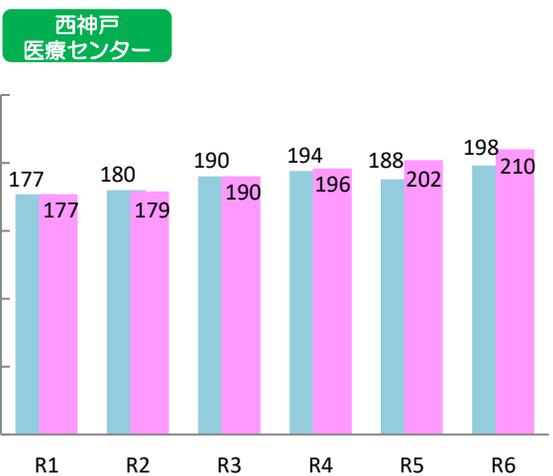
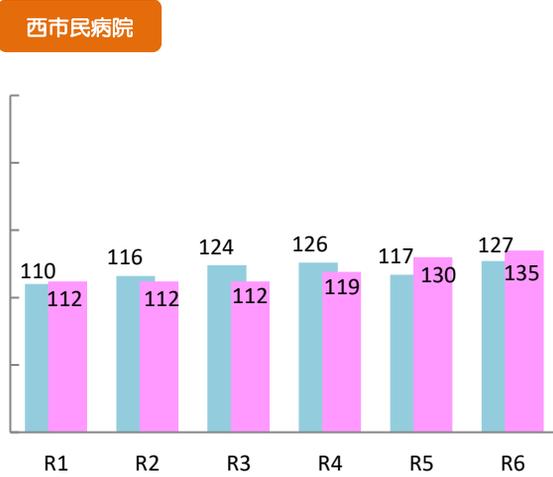
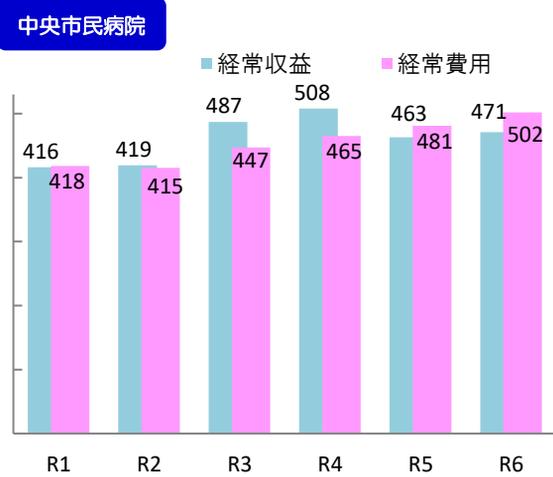
- 救急車応需のさらなる向上に努め、過去最多となる救急車の受入による入院患者の増加
- 紹介患者の増加に向けて、紹介が減少した診療所への重点的な訪問等、診療所訪問を積極的に実施
- 経営改善WTを設置し、DPCを意識した入院期間の徹底、クリニカルパスの見直し等に取り組み、経常収支は改善（前年度比+3.9億円）

○ 西神戸医療センター

◆令和6年度の主な取り組み

- 経営改善室設置に伴い改称された経営改善会議等において、DPC係数や各種加算の算定件数の向上への取り組みを促進
- 高額材料の預託在庫化や在庫定数を適正化
- 地域医療機関への定期的な訪問を委託し、地域の開業医との連携強化、ニーズ把握等を実施

グラフ19：経常収益・経常費用（億円）

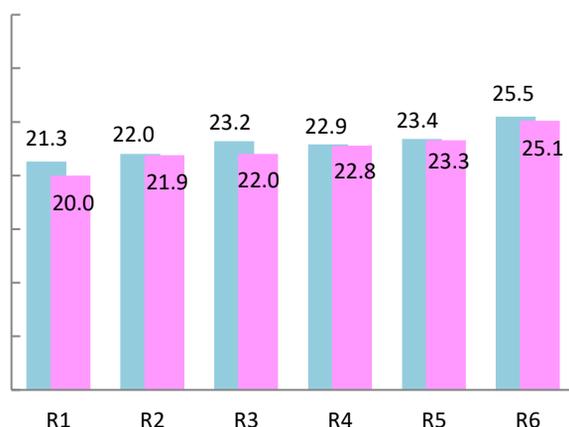


○ 神戸アイセンター病院

◆ 令和6年度の主な取り組み

- ・ 外来・手術枠を迅速かつきめ細やかに調整することを徹底
- ・ 手術枠の見直し等で手術件数は過去最多を更新（3,444件）
- ・ 地域医療機関訪問実施等で紹介患者数は過去最多を更新（2,890件）
- ・ 材料の価格交渉や委託業務の仕様の見直し等費用削減実施

神戸アイセンター
病院



※ 神戸アイセンター病院は、昨年度の自治体立優良病院会長表彰に引き続き過去5か年以上（令和元年度から令和5年度）経常利益を計上し、経営努力の状況及び地域医療に果たしている役割を総合的に判断され、令和7年6月に総務大臣表彰を受賞しました。

○ 法人本部

経営改善に向けた各指標における進捗管理を行い、収益の確保や費用の縮減による収支改善に取り組みました。

また、各病院指標との比較や外部有識者からの経営分析も踏まえ、令和7年度予算編成にあたって3か年の具体的な経営目標を設定し、目標達成に向けて委託料の削減等の経営改善に取り組みました。

(2) 計画的な投資の実施

第4期中期計画の投資計画に基づき、高度医療機器等について、社会情勢や医療需要の変化等を踏まえ、収支の見通しを立てたうえで計画的な投資を行いました。



写真37 職員ラウンジ（アイ）

◆ 令和6年度の主な取り組み

- ・ 経年劣化、医療安全の向上、収益性等を勘案して投資計画を作成するなど優先順位を付けた医療機器等の更新（中央・西・西神戸）
- ・ 職員が利用しやすく憩いの場となるような職員ラウンジの改装（写真37）（アイ）

その他業務運営に関する重要事項

1. DXの推進

マイナ保険証の利用促進や電子処方箋、電子カルテ情報共有サービス、救急時医療情報閲覧機能の導入といった国の動向などを十分注視しながら各病院の状況に応じた医療DXを進めるとともに、事務部門についても業務の効率化を進めました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・臨床研究センターに新たに「臨床AI研究部」を立ち上げ、臨床研究等にAIを活用できる環境を整備（中央）
- ・アイセンター病院へのRPA導入（機構内全組織でRPAを導入済）
- ・さらなる事務の効率化やペーパーレス化の推進を目的に、人事給与システムを更新（写真38）



写真38 人事給与システム

2. 情報セキュリティ対策

情報セキュリティリスクに対し、これを回避、提言する技術的対策を講じるとともに、全職員を対象とした研修を実施し、職員の情報リテラシー向上を図りました（写真39）。



写真39 訓練実施の様子

3. 西市民病院の再整備

令和10年度中の開院を目指していましたが、事前に市場調査を行った結果、応札事業者が見込めないこと、強固な止水工事が必要なことから、令和13年夏頃まで開院時期を延期することとしました。市街地西部の中核病院として担うべき役割の実現に向けて、高度かつ専門的な医療及び急性期医療の対応強化に向けて、引き続き検討を行いました。

◆令和6年度の主な取り組み

- ・建設費高騰を踏まえ、事業全体を改めて精査し建物設備や仕様、全体面積を再検討（写真40）
- ・災害対応病院として、大規模災害時にも診療が継続できるよう、免震構造の導入や止水板の設置等について検討



写真40
ワーキンググループの様子

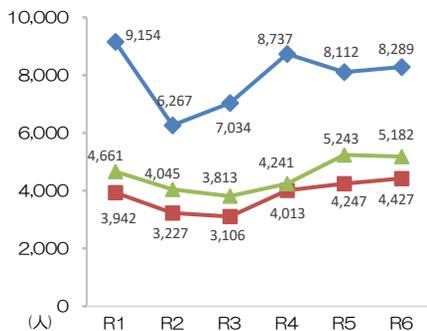
新病院に関するウェブサイト



医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は ◆ 西市民病院は ■ 西神戸医療センターは ▲ 神戸アイセンター病院は ● 法人全体は ◆ で表示

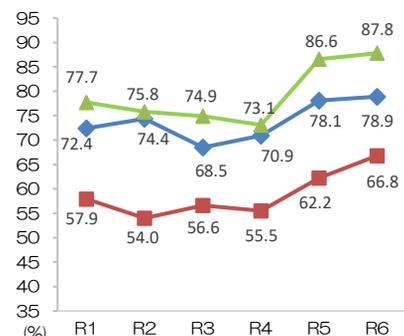
(1) 救急車受入



<令和6年度計画目標値>

西市民病院	4,500人以上
西神戸医療センター	5,000人以上 達成

(2) 紹介状



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	75.0%以上 達成
西市民病院	57.0%以上 達成
西神戸医療センター	80.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、紹介患者数により1日11.2人と目標を設定し、1日11.9人という結果だった。

(3) 逆紹介率

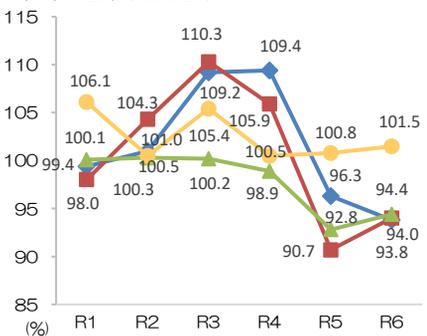


<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	130.0%以上 達成
西市民病院	113.0%以上 達成
西神戸医療センター	90.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、逆紹介患者数により1日13.5人と目標を設定し、1日15.7人という結果だった。

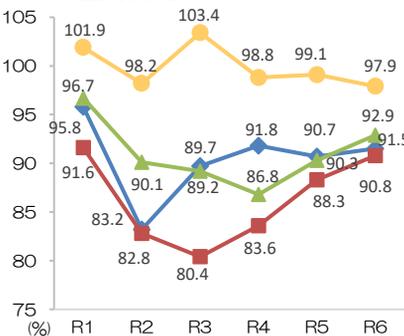
(4) 経常収支比率



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	97.9%
西市民病院	98.8%
西神戸医療センター	95.6%
神戸アイセンター病院	100.4% 達成

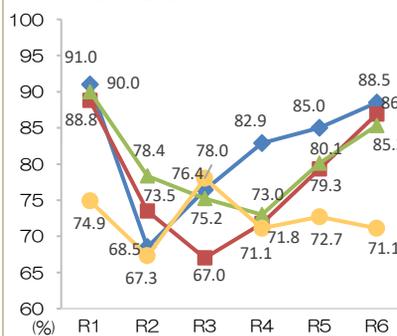
(5) 医業収支比率 ※運営費負担金を除く



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	91.4% 達成
西市民病院	91.0% 達成
西神戸医療センター	90.5% 達成
神戸アイセンター病院	93.4% 達成

(6) 病床利用率 ※感染症病床、結核病床を除く



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	91.5%
西市民病院	90.0%
西神戸医療センター	91.0%
神戸アイセンター病院	75.5%

(7) 平均在院日数



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	11.0 以下
西市民病院	12.0 以下 達成
西神戸医療センター	10.0 以下 達成
神戸アイセンター病院	3.6 以下 達成

※西：地域包括ケア病棟を含まない

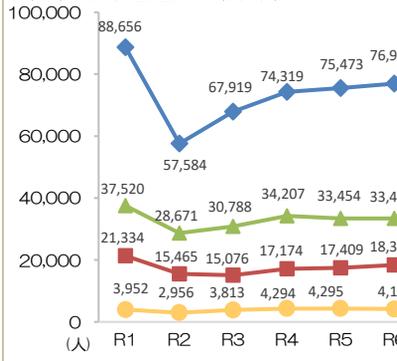
(8) 新規患者数(入院)



<令和6年度計画目標値>

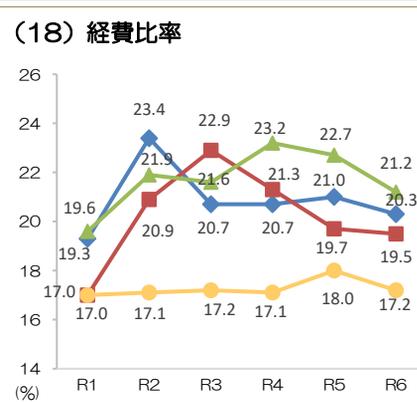
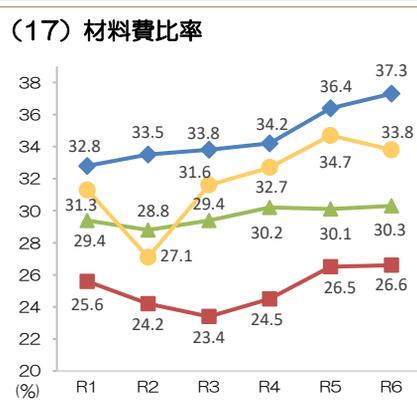
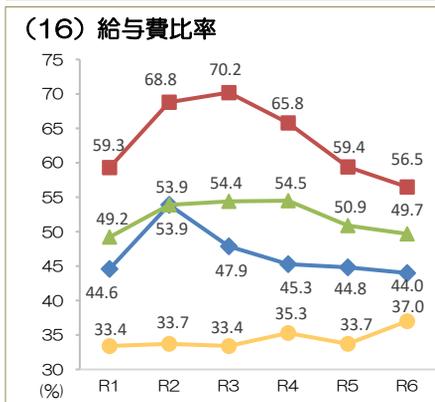
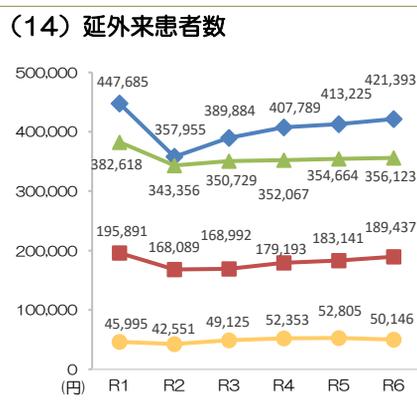
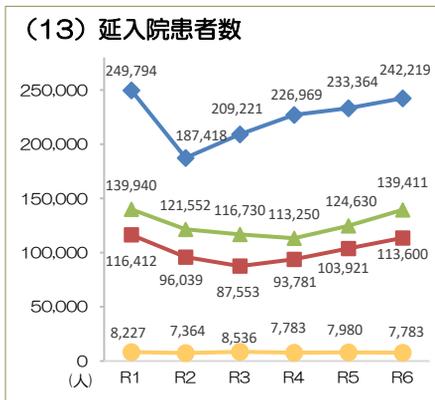
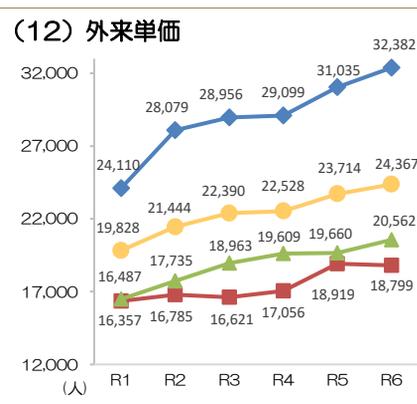
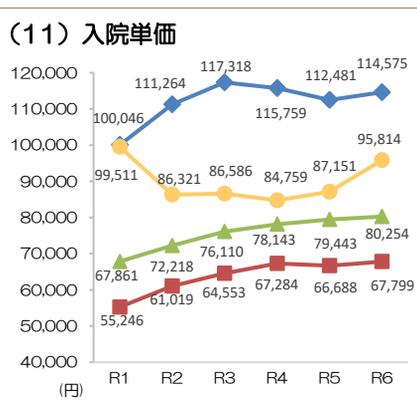
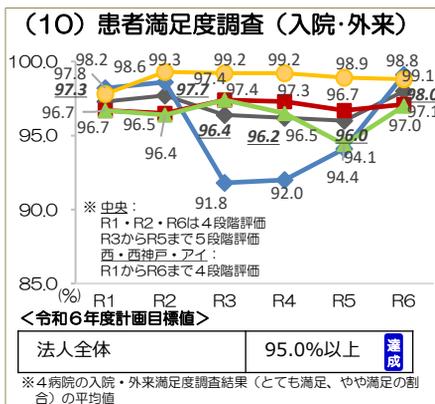
中央市民病院	22,771 以上 達成
西市民病院	9,827 以上 達成
西神戸医療センター	14,124 以上 達成
神戸アイセンター病院	2,311 以上 達成

(9) 新規患者数(外来)



<令和6年度計画目標値>

中央市民病院	76,195 以上 達成
西市民病院	19,200 以上 達成
西神戸医療センター	37,436 以上 達成
神戸アイセンター病院	4,374 以上 達成



経常損益・単年度資金収支

